

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	20106
課題名	胎児期から乳児期までに発見される腎腫瘍の診断及び外科的治療に関する検討
研究期間	西暦 2020年 11月 13日 ～ 2024年 3月 31日
研究の対象	1990年4月1日から2024年3月31日までの胎児期から乳児期(1歳)までに腎腫瘍と診断された患者さん
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報(詳細:年齢、性別、診断名、既往歴、治療内容、検査結果、画像診断結果、体表写真、手術記録(画像)など) <input type="checkbox"/> 試料:手術で採取した組織(対象臓器等名: )
研究の意義、目的	<p>小児腎腫瘍全体の約80-90%をWilms腫瘍が占めており、最も頻度が高い疾患ですが、生後6ヶ月以内の乳児や新生児においては、先天性間葉芽腎腫瘍(congenital mesoblastic nephroma ; CMN)や腎ラブドイド腫瘍(rhabdoid tumor of the kidney; RTK)、腎明細胞肉腫(clear cell sarcoma of kidney; CCSK)などのWilms腫瘍以外の発症割合が高いと言われています。特にCMNは生後3ヶ月未満の腎腫瘍では最多で、診断中央値は生後1ヶ月です。生後7カ月以内に限定した内訳で見ると、CMN約18%、RTK約8%と高い傾向があります。CMNやRTKに特徴的とされる画像所見の報告が散見されるものの、診断根拠となるような特異度の高い所見はなく、画像診断での鑑別は困難であるとされています。</p> <p>当施設では、非常にまれなCMNの症例も経験しており、後方視的にデータを解析することにより、術前診断の一助となり得る因子の有無について検討します。</p>
研究の方法	1990年4月1日から2024年3月31日までの胎児期から乳児期(1歳)までに腎腫瘍と診断された患者さんの診療記録、手術記録、手術画像(動画含む)などから後方視的にデータを解析することにより、術前診断の一助となり得る因子の有無について検討します。
その他	本研究の実施に際しては特に資金を必要としません。 本研究は企業や団体とのかかわりは無く開示すべき利益相反事項はありません。
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p><b>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:</b> 〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号</p>

旭川医科大学 外科学講座 血管呼吸腫瘍病態外科学分野小児外科 電話 0166-68-2494 FAX 0166-68-2499 <b>研究責任者：</b> 旭川医科大学外科学講座 血管呼吸腫瘍病態外科学分野小児外科 講師（学内） 宮城 久之
---